ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.13

平成30年度整備事例集

私たちのまちを
私たちでつくる
きっとまちが好きになる

掲載事例

①#BuildingTogether太陽ローズハウス（青葉区）
②中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース（泉区）
③「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備（青葉区）

ふ~しん【普請】「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民の発意とアイデアによる地域課題の解決や魅力向上に資する施設（ハード）を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、二段階の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最大500万円の整備助成金等を交付する事業です。

コンテストの年度

自ら主体となって生活環境の整備をしたい市民グループ
→ 4月上旬～6月上旬 整備提案募集
→ ヨコハマ市民まち普請事業部会による選考（学識経験者・まちづくり実践者・市民委員（公募））
→ 7月上旬 一次コンテスト開催
→ 9月中 活動懇親会
→ 1月下旬 二次コンテスト開催

整備の年度

市民自ら整備・維持管理を実施
整備助成金として最大500万円を交付

横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員（平成29年度選考委員） ※所属は令和元年２月時点

岡本　滋子	NPO法人さくら茶屋にししば理事長（まちづくり・市民活動）
男澤　誠	市民（公募委員）
河上　牧子	明治大学地域ガバナンス研究所客員研究員（都市政策）
川原　晋	首都大学東京都市環境学部教授（市民主体の地域運営・まちづくり市民事業）
塩入　廣中	市民（公募委員）
菅　博嗣	（株）あいランドスケープ研究所代表取締役（花とみどり・公園緑地）
杉崎　和久	法政大学法学部教授（公共政策）
鈴木やよい	NPO法人横浜市民アクト理事（まちづくり）

ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.13
平成30年度整備事例集

●発行　令和2年2月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1　TEL 045-671-2679　FAX 045-663-8641
●編集・デザイン　横浜市住宅供給公社
●デザイン・印刷　山陽印刷株式会社

あちこち・ドキドキ・ハマのまち 都市整備局

「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/

Webで検索 まち普請 検索

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。
https://www.facebook.com/yokohama.machibushin

Webで検索 まち普請ひろば 検索

整備事例 1

#BuildingTogether 太陽ローズハウス（青葉区）

～市内屈指のローズガーデンを有する公園に生まれた、地域住民をつなぐ共創の家～

太陽ローズハウス。オープン時には赤い看板が掲げられている。

舞台は市営地下鉄あざみ野駅からバスで15分程の場所に位置する、荏子田太陽公園。230株のバラが咲き誇り、年に一度の「ローズフェスティバル」には3000人以上が訪れます。以前は荒れた公園でしたが、小学校のおやじの会がうっそうとしたツタなどを取り払い、さらに近隣に住んでいたイギリス帰りの住民の「市の花のバラを植えたらどうか」というアイディアをもとに、2001年より、有志で組織された「Joy of Roses(バラの会、以下JOR)」の手によってローズガーデンづくりが始まりました。

ローズガーデンが整備されると、園芸雑誌の表紙にも取り上げられるようになり、近隣の小学校や幼稚園だけでなく、遠方からも人が訪れるようになりましたが、公園にはトイレや休憩できる場所がなく、せっかく訪れた人たちも短時間で帰ることが多いことが課題でした。

そのような中、ヨコハマ市民まち普請事業を知り、すぐに申請を決めたそうです。中心となったのはJORのメンバーであり、荏子田太陽公園愛護会の会長でもあった増田さんでした。増田さんは自治会など地区の役員も兼務されていて、地域の中に住民が集える場所が自治会館しかなく、他にも気軽に集える場所があればと以前から感じていたことから、申請にあたってはその機能も盛り込みました。

増田さんは「JORだけで進めていくと、施設は地域のものにならない」と考え、自治会、子育てサロン、合唱グループなど地域で活動している人たちに声をかけて回ったそうです。一方で、ボランティア活動をしている様々な団体が集まったことで、その意見をまとめていくことに苦労をしたとのことです。その苦労の甲斐もあってか、一次コンテストでは高い評価を得ることができました。

外構部の石敷きの様子。地場の協力業者の方に教わりながら、自ら手がけた。

二次コンテストの前には、助成金の500万円では整備費用が足りないという課題が立ちはだかりました。コンテストに通過する前だったので、予約という形で寄付を集めに回ったそうです。どこに説明に行っても「本当にできるの?」と言われ、それに対して「JORのためではなく、地域のために」、「できるできないではなく、つくる」と思いを伝え、理解を得ていったそうです。並行して、近隣に住んでいたまちづくりが専門の大学の先生に助言をもらうとともに、公園の管理を担っている土木事務所にも何度も足を運び、より実現性の高いプランへと落とし込んでいきました。二次コンテストの段階ではぼんやりとしていた提案が具体的になるにつれて、協力してくれる人も増え、地域が一致団結していきました。その結果、二次コンテストも見事通過することができました。

人気の将棋教室。
地域に住んでいるシニア大会優勝者の強者が講師を担当している。

整備にあたっては、できるだけコストを削減するために、部屋のクロス貼りや床のフローリング敷きなどを、おやじの会の協力を得ながら、地域の人たちの手で進めていきました。また、地場の企業が、資材の提供や樹木の伐採など多くの部分で協力してくださったそうです。

完成後の施設の管理にあたっては、コンテストに協力してくれた地域の団体に、管理人として留守番を担う団体の登録をしてもらうことで、その団体が施設を使用している時間は、公園に来ている人もトイレを使ったり、休憩できるようにしました。その後、コンテストに挑戦していた時期から地域に全戸配布している広報紙を見た人が、「ここでこんなことできないか」と公園を訪れ、コーヒーを振る舞う会や、将棋教室、書道教室などの活動が新たに団体へと発展し、今では18もの団体が登録しているそうです。

開所してから1年を待たずして、月に300～400人が利用するようになり、特に小さい子どものいる子育て世代に人気の場所となっています。そのような世代間の交流が生まれていることに加え、JORのメンバーも休憩場所ができて、ボランティアの参加者も増えたことから、公園がどんどん綺麗になるという好循環へとつながっています。

増田さんに今後の展望を伺ったところ、「地域には子育て世代や高齢者を中心にまだまだ屋内にこもっている人が多いので、外に出かけたくなる仕掛けをさらに考えたい」とのことでした。また、「横浜一綺麗な公園にしたい」という目標もあるようです。ローズガーデンに加え、新たな魅力が備わった荏子田太陽公園の今後に大いに期待できそうです。

地域の子育て中の母親たちが集う場にもなっている。

#BuildingTogether 太陽ローズハウス(青葉区)
整備主体…荏子田太陽公園愛護会グループ
整備場所…青葉区荏子田3丁目21番5号 荏子田太陽公園内
整備内容…トイレを備えた休憩・集会施設
協力企業…株式会社 三橋緑化興業
竣工時期…平成31年3月

整備事例 2

中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース（泉区）

～こだわりのキッチンが多世代をつなぐ、地域の新しい居場所カフェ～

横浜市営地下鉄中田駅から徒歩10分の中田町宮ノ前公園に隣接する、白と黒の壁のコントラストが目を引く建物が「宮ノ前テラス」です。1階の内装設備と外構部分をヨコハマ市民まち普請事業で整備しました。

代表の高橋さんは定年退職されたあと、第二の人生をどう過ごすか模索しているときに参加した市民活動講座で、コミュニティカフェを知りました。「自分の地域にもこのような場所が欲しい」と区役所に相談したところ、区の高齢・障害支援課の職員から、「地域のために何かをしたいと考えている地域住民が他にも3人いる」と紹介してもらい、そこから活動が始まりました。そこで知り合った1人が、宮ノ前テラスのオーナーでもある自治会役員の奥津さんでした。ちょうど建て替えを検討していたタイミングで、単なる住宅ではなく「地域の人に喜んでもらえる場所にできないか」と考えていたことから、皆で話し合い、多世代が立ち寄れる拠点をつくろうと方向性が固まりました。建物の2階に学童保育の誘致が決まり、1階で拠点づくりを進めることにしましたが、1階を整備するための資金がありませんでした。そこで、再び区の高齢・障害支援課に相談したところ、ヨコハマ市民まち普請事業を紹介され、当初は「整備の資金が欲しい」という一心で申請を決めたそうです。

公園側の取り除かれた柵から見た宮ノ前テラス。
公園からのアプローチが用意になった。

宮ノ前テラスの整備には区役所の担当者が重要な役割を果たしました。同じ考えをもつ仲間をつないだこと、さらにヨコハマ市民まち普請事業の事前登録※1を勧めてくれたことで、申請の段階からまちづくりコーディネーターが支援に入り、スムーズにアイディアをまとめていくことができたのです。

一次コンテストでは、やりたいことを提案にまとめる作業だったため、期待感をエネルギーにして、見事、最高得票数で通過を果たしました。

二次コンテストでは、実現性や地域まちづくりへの発展性も問われるため、町内会や公園愛護会など地域の団体の会合へ説明に回ったそうです。最初は、誰に会いに行けばいいのかもわからなかったのだそうですが、ここでも区の職員がサポートしてくれ、さらに運営資金の調達の手段として、「横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業（通称、サービスB）」※2も紹介してくれました。

キッチンは外側にもシンクを設置し、子どもたちも食器洗いができるようにしている。

提案ではキッチンにとてもこだわりました。「多世代が集う場所にしたかった。食があることで集いの場になるから、食を中心にしたかった。でも、キッチンがしっかりしていないと、食が中心にならない」と。そのため、キッチンの整備費用が高く、それを審査員からも指摘されましたが、丁寧に説明を重ね、理解を得ていきました。加えて一つ難関だったのが、隣接する公園の柵でした。この柵を取り除くことができれば、公園との一体的な活用の可能性も広がります。コンテスト時点には結論が出ていませんでしたが、何度も土木事務所へ訪問し、交渉を重ねていることも評価され、無事に二次コンテストも通過できました。そして、高橋さんたちメンバーの熱意によって町内会や地域協議会からの賛同も得ることができ、ついに柵が取り除かれることになりました。

棚は知り合いの大工の手作り。内装にもこだわった。

念願のキッチンも整備され、パリのカフェをコンセプトとした明るく綺麗な装いでオープンした宮ノ前テラスですが、最初はなかなか人が来なかったそうです。カフェ以外にも、高齢者や子育て世代向けのイベント、学習支援や子ども食堂など様々な取り組みを行うことで、徐々に利用者が増えてきました。それらの取り組みがボランティアの皆さんの手で行われていることは驚きですが、年配のボランティアの方々からは、「ここに来るようになって、元気になった」、「オシャレするようになった」、「生きがいができた」という声があがっていて、高橋さんは「この場所を作ってよかった」とおっしゃいます。子育て世代の利用も増え、赤ちゃんを寝かせながら過ごせるようにローテーブルを導入しようという若い母親スタッフの意見も取り入れたりと、さらに多様な世代にとって居心地の良い場になるように、運営がなされています。

高橋さんは「最初に自分たちがやりたいと思ったことをブレずに通したことが今につながっている」と、ヨコハマ市民まち普請事業への挑戦を振り返られました。日々色々なアイデアが生まれている宮ノ前テラスに、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

※1：通年受付をしており、登録すると次年度の一次コンテストに向けて、提案内容やグループの意見をまとめるため、市に登録しているまちづくりの専門家（コーディネーター）の派遣を受けることができる制度。

外構舗装には地域住民も参加して、
土堀りやならしを行った。

※2：ボランティアを始めとした地域住民が、要支援者等を対象とした介護予防・生活支援の活動を行う場合に、その活動に係る費用に対して、補助金を交付する制度。

レンタルスペースは、講座などの利用に加え、
友人同士の集まりなどにも使える。

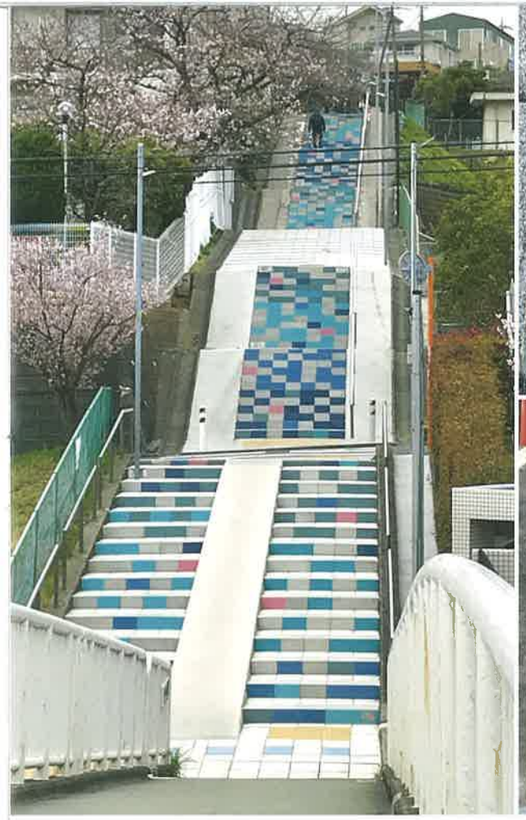
中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース（泉区）
整備主体…宮ノマエストロ
整備場所…泉区中田東4丁目59番41号
整備内容…コミュニティカフェのキッチン他内装および外構
竣工時期…平成30年9月

整備事例 3

「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備（青葉区）

～カラーリングを通して、そこに住む人がまちを育てていく。まちの新スポットは地元愛の象徴～

1960年代に田園都市として開発された「美しが丘」。遊歩道という概念が珍しかった頃から、歩車分離のまちづくりがなされてきました。春夏秋冬、まちはいろいろな表情を見せ、今も魅力的な住宅地であり続けています。日本で初めて住民発意の建築協定※1をつくり、地区計画※2への移行に当たって遊歩道を歩行者専用道路に位置付けるなど、「まちは、そこに住んでいる人がつくりあげていくもの」という住民の想いと努力により、素敵なまち並みは開発後50年以上経った今も健在です。



少し離れた場所からでも、カラフルな色彩で目を引く百段階段（左）
地域に点在する案内プレートには、百段階段の何段目の高さに当たるかが記載されている（右上）
情報看板前にはベンチを設置し、夜間はライトアップされる（右下）

2000年頃からは、遊歩道をカラーリングしたり、住宅地にアート作品を展示したりするアートイベントを行ってきました。その時から関わっていた代表の藤井さんは、子どもたちが地域の階段を「百段階段」と呼んでいることを知ります。単に名前がつけられているだけでなく、そのネーミングのセンス、そして、子どもたちが地域に愛着を持っていることに改めて気づき、感動したとおっしゃいます。

その百段階段を地域の中心としてまちのランドマークを増やしていけば、もっとまちに愛着を感じてもらえると思った藤井さんは、デザイン性に富んだサインを街中に設置できないか、区役所に働きかけましたが、その反応は「趣旨は理解できるが、安心安全を保障する行政として、サイン整備はなかなか難しい」というものでした。しかし、そこでヨコハマ市民まち普請事業を教えてもらい、「まちは住民がつくるもの」というモットーから応募を決めます。

カラーリングは2日間のワークショップとして企画され、合わせて約70名が参加した。

応募にあたって、地域でアンケート調査を行ったところ、様々な意見が寄せられました。また、地域の人たちとまち歩きツアーを開催したところ、まちに暗くて歩きたくないような場所や、傷んでいる遊歩道があることなど、多くの発見がありました。提案をまとめる際には、地域の人たちだけでなく、青葉区で活動する建築やデザインの専門家も巻き込み、みんなで知恵を出し合いました。その熱意が実を結び、見事コンテストを通過することができました。

百段階段のカラーリングとあわせて、百段階段をまちの「ものさし」にした案内プレートも整備し、まちのとっておきの場所を「たまプラ遺産」と名付けて「ここは階段の何段目にあたります」と書かれたプレートを設置することで、まちの標高を見える化したのです。また、暗い場所にはライトをつけて安心して通ることができるようにしました。

百段階段のカラーリングのデザインは公募で決定し、子どもたちでも塗りやすいようプロの監修のもと、地域の手で整備を行いました。「ここは自分が塗った」と自慢するオジサンもいれば、子どもたちも「自分たちが作り上げた」と思っているそうです。

小学校の卒業式に階段を花で飾る「花の百段階段」も大好評で「毎年やってほしい」という要望があり、百段階段の新しいイベントが生まれました。最近では、百段階段が子どもたちやママたちの待ち合わせ場所にもなりつつあるそうです。

草も生えっぱなしで薄暗かったバス停には、周辺のマップをわかりやすく掲示板にして整備し、ライトもつけました。そこにベンチを置いたところ、子どもが集まって宿題をしたり、夜にはワインを飲む人も現れ、まちの新たな人気スポットになっています。

ヨコハマ市民まち普請事業に応募し、まちのことを改めて先輩からレクチャーしてもらって、若い人たちが感動したり、若者のデザインセンスに年配の人が驚いたりしながら、ゆるくつながってお手伝いし合う、という関係が生まれました。自治会のアセス委員会に若い人が入ってきたり、子どもつながりで親たちが参加するようになったり、世代間の交流は着実に進んでいます。

小学校の卒業式に合わせた「花の百段階段」。花のポットには「卒業おめでとう!」の旗がさされている。

ヨコハマ市民まち普請事業で整備した後も美しが丘をさらに魅力的なまちにしようとの機運が高まり、他の助成金を得て、百段階段へつながる歩道橋をカラーリングすることになりました。「まちに、名前の付く場所が増えてほしい。そうすると、もっと地域を身近に感じる人が増えると思う」と藤井さんは言います。最近では美しが丘で生まれ育った人たちが、「ここで子育てをしたい」と戻ってくる人も出てきているそうです。

住んでいる人がまちをつくる、という先輩たちの思いは着実に受け継がれ、美しが丘はさらに魅力的なまちに進化中です。

※1：土地の所有者等の全員の合意によって建築基準法等の「最低の基準」にさらに一定の制限を加え、互いに守りあっていくことを「約束」し、その「約束」を市長が認可する制度。

※2：都市計画法に基づいて定める特定の地区・街区レベルの都市計画のことで、まちづくりの方針や目標、道路・広場などの公共的施設（地区施設）、建築物等の用途、規模、形態などの制限をきめ細かく定めるもの。

「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備（青葉区）

整備主体…美しが丘アセス委員会遊歩道ワーキンググループ
整備場所…青葉区美しが丘一～三丁目
整備内容…階段のカラーリング、案内プレート設置、情報看板設置
竣工時期…平成31年2月